

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402192		
法人名	社会福祉法人杏寿会		
事業所名	グループホームあけぼの A棟		
所在地	〒859-2112 長崎県南島原市布津町乙674-3		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の意向を取り入れ、月に1度は外出の機会を設けている。春や秋のハイキングには、出来るだけ多くの入居者が参加できるように布団等も準備し、入居者、職員が一緒に楽しめるように工夫している。入居者がグループホームでよりよい生活ができる為に男性入居者には花札などを楽しんでいただいたり等、一人ひとりにあった楽しみを取り入れながら、明るく、笑顔のあるグループホームを目指している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な山裾に円錐形に設計されたホームの居室は、南向きで日差しが入り明るく、ウッドデッキでは鉢植えの菊等があり、利用者も鉢植えの水遣りや日光浴を楽しめる。これから朝顔の鉢植えを植えて、利用者の方々と育て、花の開花を楽しみたいと意欲を示されている。理念に掲げられている「……だから幸せ」と思える一日一日の楽しみごとや、笑顔で過ごせる外出の機会を利用者本位に持てるように、事前に場所を確認して取り組まれている所長の誠意が強く感じられ、ケアにおいては、利用者一人ひとりを大切に地域の行事への参加の意義を踏まえて、祭りの神輿に一人ひとり賽銭をいれたり日々の生活でも実践に努められている。夜勤後の業務の報告と申し送りの共有、評価の徹底に努められている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員による自由な発想を基に利用者の幸福を目指した理念を作り、朝の朝礼にて職員で読み上げ実現に向けて、意識を高め取り組んでいる。	運営理念に沿って「明るく、楽しく、自分らしく、笑顔のあるホーム・・・だから幸せ」と利用者一人ひとりが思ってもらえるように、心温かく大切な関わりの支援に努められている。職員は、理念を唱和することで意識を高めケアの実践に取り組まれている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、催し、町内掃除等、積極的に参加し、地域の一員になれるように努力している。	地域のお祭りには積極的に参加して、利用者の人生の背景の労をねぎらう意味合いを大切に記念撮影を必ずされる。また、他のグループホームとの交流に努め、ハイキングなどを予定されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は取り組んでいない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を行い、最近の活動状況及び今後の行事予定の報告をし、意見交換を行い、よい意見は取り入れ、サービス向上に取り組んでいる。	会議において、最近の活動状況や予定、利用者の状態、会議での指摘事項などを報告されている。今後も、会議における意見の反映を検討課題として、定期的な会議の実施を考慮されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では、町の祭りやイベントに参加した時等、民生委員との交流もある。	グループホームケア研究会の要請で、警察、消防、地域の消防団などの協力を得て、行方不明者の人命を第一に早期発見できるように連携をもたれている。支所の担当者とは、会議への参加などで馴染みの関係を保持されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむをえない場合は検討し、家族の同意を頂くことになっている。	所長は身体拘束のないケアについて、職員の理解の程を問いかけられたりして、利用者に安心のある自由な生活をして頂けるように、最善の手順を持って取り組めるように話し合われている。玄関の鍵は日中されていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会があったが、対象者はこれまでにいなかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料、入院時の対応、又、その期間、入退所の条件等、十分に説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、不満は面会時や家族会等にて説明を行なっている。	家族の多忙さを考慮して、同意書の記載の必要がある場合は訪問して、家族との関係構築に努められている。意見箱での意見は得られないが、無記名での苦情相談のアンケートを実施されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや定期的な職員による全体会議などで職員の意見を聞く場を設けている。	毎月実施されるグループホームケア研究会の研修に、全員参加されている。職員の処遇については、所長の指導やホーム内での勉強会で、利用者本位の介護の質の向上と意識の統一に努め、職員の意見も聞くようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員が向上心を持って、働けるように条件の整備に努めておられます。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協を利用した研修や研修会、又施設内での勉強会や介護教室等を行なっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH連絡協議会に入会しており、定期的に参加し、サービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な事や要望等、常に傾聴し、安心してもらえるように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望等を傾聴し、安心されるように連絡を取っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴、本人の状態などにより、本人の合った、支援を家族と相談している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寝食を共に一緒に過ごす家族として喜怒哀楽を共にし、何か役割を持って頂くことで生活意欲を持って頂いている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その人に合った会話や一緒にできる事を行っている。病院受診時の付き添いや日帰り温泉、ハイキング等に家族の参加をお願いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機会があれば、面会をお願いしている。理容美容院や歯科等、支援している。	職員が同行してお盆の墓参りへ行かれたり、馴染みの理美容院へ出向いて散髪やカットをしてもらい関係継続の支援に努められている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	目配り、気配り等で支えあっていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が続く家族もいるが、そうでない家族の方もおられる。関係が続く家族に関しては必要に応じて相談や支援が出来るように努力している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、本人の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人、家族と話す機会を設け、検討している。	利用者の生活歴を大切に、ホームでの生活において、菊や朝顔の栽培で水遣りや虫取りなど、出来ることで花を育てる楽しみを持っていただけるように鉢植えの栽培を考慮されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方等、家族や本人に聞く事で情報等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の過ごし方の記録やバイタルチェック等を行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを基に職員間でケア会議を実施し、意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。	介護計画は職員担当制で、担当は定期的にかわる。長期・短期目標と日々の利用者の身体状況が把握でき、目標に沿ったケアの実践に対する評価も日々取り組まれている。利用者の状況に応じ随時、又は3ヶ月毎に見直しをされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づいた事を個別記録に記入している。変化が生じた場合は本人、家族、職員と検討し、介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人で行われる盆踊りや運動会又、様々な行事、慰問等へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力をお願いしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医による受療継続を基本としている。通院支援はホームで対応している。協力医療機関とは24時間連携体制をとっている。	利用者に他科受診が必要な場合は、かかりつけ医が紹介をして家族に報告のうえ、家族の受診への同行を依頼されている。かかりつけ医は診療後の報告について、利用者の身体状況を把握されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、状態の変化に対する今後の処遇のやり方等、相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療が出来るように情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と話し合い、かかりつけ医と相談しながら、方針を定めており、共有していきたいとしているが、職員全員が共有しているとはまだいえない。	終末期に向けた支援については、改善計画の課題として、職員の意識の共有を図るべく研修や勉強会を今後も、引き続き取り組むべき課題とされている。現時点では、対象者もなく看取りの経緯もないが、支援すべき時点での連携については考慮されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員による応急手当や救命処置の訓練を職員全員が受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団や警察、行政等、訓練に参加していただき、災害時等に協力できるようお願いしている。スプリンクラー設置。	自然災害(降雨量の多い水害)における防水壁の取り付けを準備されている。避難訓練は、消防署立会の下、夜間想定と昼間の消火訓練も実施されている。非常灯は30分点灯している。利用者の非常持ち出しファイルも作成されている。	災害時における、非常食の備蓄及び緊急時の持ち出し資料に利用者の顔写真挿入等、改善計画として取り組まれているが、内容の不十分な点を理解されている。今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	損ねるような言葉かけや対応、又、個人情報 の取り扱い等、十分に気をつけて支援を行っ ている。	利用者の記録内容の書類は、事務所に保管 されている。職員は方言を交えながら、穏やか に利用者に関わられている。利用者の身だし なみにも所長が心配りをされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自分で決めたり、納得しながら、暮らせる様 、本人が自己決定したことに支援できるよう努 めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切に、その日をどのように過 ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課が決まっている中でも、本人の ペースを大切に、出来るだけ希望にそえる ように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	散髪の出張サービスや家族、職員等が行っ ている。利用者の希望があれば、洋服の買 い物等の送迎も行う。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事は楽しんでもらっている。介助の必要な 入所者も多い為、一緒に食事は出来ない が、一部の入所者に準備、片づけを手伝っ てもらっている。	利用者もテーブルを拭いたり、片づけをされて できることで共に食の楽しみを得られている。 減塩食や糖尿病食に関しては、医師と栄養士 の連携の下、カロリー計算をし、献立を作成し ている。利用者の好みを聴いて、献立を変更 することもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	栄養士が献立を作成しており、栄養バランス に配慮された食事を提供できている。食事摂 取量、水分量は記録にとり、栄養の確保に努 める。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食に歯磨き、口腔ケアに取り組んでいる。 又、口腔の状態の観察も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間おきの排泄誘導介助、排泄チェックにより、排泄の失敗がなくなるよう、支援している。	利用者に排便をされたかどうかをきいて、記録することで時間誘導に努められている。昼間はパンツの使用でも、夜間はオムツの使用で快眠をえられるように、朝方、清潔保持のために毎日、清拭に努められている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行訓練、レクリエーション等を通じて運動不足の解消に取り組んでいる。又、水分補給、服薬にてコントロールを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯等、本人の希望を聞きながら、週2～3回の入浴を行っている。	基本的に冬場は週2回、夏場は週3回の月曜から土曜までの午前中に、入浴の支援をされている。トイレの介助時や入浴時に皮膚をチェックされており、利用者が入浴を拒否される場合は、声かけの工夫をして無理のない支援に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、休んで頂いたり、夜は、本人が休みたい時に休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や用法については一部の職員は理解している。服薬介助は二人の職員で名前を確認し、誤薬のないように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	健康体操やレクリエーション等、利用者の希望に応じて、参加してもらっている。又、洗濯物をたたんだり、食事の後片付け等の役割を持ってもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩等、本人の希望も聞きながら、支援している。	利用者の理美容院利用のための外出や、花の開花時期をみて気軽なドライブの外出支援に努められている。利用者の希望に沿って、外出の機会を多く持てるように考慮されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には所持して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等、希望があれば、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、生け花を飾ったり、好きな音楽を流す等、居心地のよい場を整えている。	事務所とキッチンからの見守りができ、利用者は食後にソファで寛ぎ、テレビを見られている。天井が高めで天窓があり、日中は照明の必要がなく日差しを和らげる工夫をされている。また、高めの畳敷きがあり、家庭的な趣がある。ウッドデッキでの日光浴や鉢植えの植栽の手入れが楽しめる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビのあるフロアーにて和室で横になったり、ソファに座り、入所者同士、会話をされ、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ホームで用意してあるタンス、ベット、布団、床頭台等があるが、希望に応じ、馴染みの物を持ち込まれている入所者も折られる。	利用者が趣味としていた植栽の朝顔の写真が飾られていたり、位牌を祭っている室もあり、心安らいで寛いでもらえるように配慮されており、利用者が必要な身の回りの品物を持ち込まれ、追加の持込についても家族に伝えられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣所や廊下の手すりの設置、浴槽の滑り止め等、安全に自立できるように工夫している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402192		
法人名	社会福祉法人杏寿会		
事業所名	グループホームあけぼの B棟		
所在地	長崎県南島原市布津町乙674-3		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない  1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない  1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない  1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない  1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない  1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで職員全員で理念を読み上げ、実現に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	共同の清掃作業参加や町内の祭り等に積極的に参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は取り組んでいない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を行い、行った行事の予定等を報告し、出た意見を取り入れサービス向上に取り組んでいるが、今回、インフルエンザ流行の為、第三回の会議(11月20日)以降、行っていない。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では、支所窓口へ行く事もあり、話をしたり、連携をとっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、本件に関わる具体的な行為を正しく理解しているとは言えないが、玄関の施錠はもとより、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んでいる職員もいるが、今までに対象者はいなかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料、入院時への対応、又その期間、入退所の条件等、十分に説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一年に二回、ホームの運動会と敬老会のイベントの際、家族会を開催しており、家族から意見や要望等を聞く機会を設けている。又、家族代表の方に、無記名の苦情相談役をお願いし、ホームにも意見箱を設けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員による全体会議などで職員の意見を聞く場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が向上心を持って働けるように努めておられます。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、現場で上司の実地指導を受けている。又月に一回はホーム内で勉強会を行ない、介護方法を勉強し、外部での研修会にも参加する機会を確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月実施されるケア研究会には、全員参加を基本としている。又、行事等で他のグループホームと合同で交流を行い、職員同士の交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	傾聴し、本人の安心を確保する為の努力をしている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	傾聴し、連絡を密にとり、安心のある関係作りをしている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人の状態に合った、支援を家族と相談し、対応に努めている。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	本人のできる事で役割を持ってもらい、お手伝いをお願いしていることで喜びを共有し、一緒に楽しみながら、感情を分かち合っている。		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	一緒にできる事を共に行い、家族には無理のない程度で、行事等の参加をお願いしている。		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	本人の希望又は、機会があれば、面会して頂いている。又、馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者の居場所を常に把握し、関係を考慮しながら、孤立する時間が少なくなるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談しやすい、関係作りに努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中から、又はテーマ等を決めて、ノートに書き出す作業のくり返し等で職員の観察力を高め、家族や関係者からも話を聞くようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境等を関係者から聞き取り、把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の記録、朝夕のバイタルチェック等を行い、ミーティング時に異常がある方はどのような処遇を行うか話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を明らかにし、必要な介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の記録を具体的に記入し、情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	杏寿会にて行なわれる様々な行事や慰問等へ、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力をお願いしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診継続を基本としている。通院支援は、ホームで対応しており、かかりつけ医が遠方等で通院に支障をきたす場合や入院加療後の状況によっては、話し合いの上で変更するケースもある。協力医療機関とは24時間連携体制をとっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、利用者の状態の変化などを定期的に見ていただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	しっかりした治療を受けて頂く為の相談はしているが、早期退院の為の相談はしていない。又、退院前は本人の現在の状況、ホームの受け入れ状況を相談し、連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去に看取りの経験はないが、今後終末期に向けた支援を行う予定である。本人、家族と話し合い、かかりつけ医と相談しながら、方針を定めており、職員も一緒に共有して行きたい。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練は行なったが不十分である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、初期消火に重点を置き、消火訓練の実施や居室全部に水道ホースが届くように設備が整っている。又、地元消防団や警察にも協力を要請している。さらに、入居者参加の元に避難を前提として訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	損ねるような言葉かけや、対応、又、個人情報取り扱いについては、ホーム外への持ち出し厳禁など、十分に気をつけて支援を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の利用者の方は、自分のペースを作り出して決定されており、それを支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、希望にそえるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の出張サービスや家族、職員等が行っている。希望のある方は、本人の行きつけの場所へ送迎等行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付け等、出来る事はやって頂いているが、食事は現在、介助の方が多く、一緒に食事が出来ない状態である。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取量を記録している。又、午前、午後とも、お茶の時間を設け水分補給に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの徹底や、介助を行い、異常みられる場合は報告し、治療を行うよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間おきの排泄誘導介助、排泄チェックにより、リズムをつかみ支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記入することによって、排便の有無の確認を行い、運動不足にならないよう定期的な運動の支援を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決まっているが、本人の希望、タイミングに合わせ、なるべく多く入浴して頂く様支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を工夫(体操、運動等)し、出来るだけ眠剤等を使用せず、安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人処遇記録に薬情を明記し、全職員が把握できるように支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	健康体操や様々なレクリエーション活動、懐メロのビデオ鑑賞等、楽しみ事を用意し、入所者の方は、好んで参加している。又、出来る方には、家事の手伝い等役割を持ってもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、ホーム外の散歩、又、お盆や年末に故郷訪問や墓参り。季節に応じてドライブの場所を考え、戸外にでる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は必要分、所持されているが、ほとんどの方が、事務所にて管理している。自分で買い物できる方は自由に使用されている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しておられる方もいる。希望があれば、電話や手紙が出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的雰囲気が出るよう、装飾等を工夫していきたい。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、気の合った方同士、好みの場所で過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ホームにて用意してある布団やタンスがあるが、希望、要望に応じ持込み品を置いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣所や廊下の手すりの設置、浴槽の滑り止め等、安全に自立できるよう工夫し、支援している。		